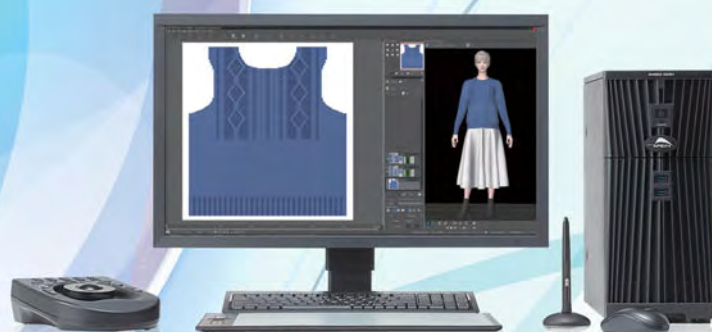


Ever Onward

アニュアルレポート 2019

2019年3月期



はじめてのシマセイキ

多彩なニットを創り出す

よこ あみ き
横編機のリーディングカンパニー

横編機は、デザイン性の高いニットウェアの生産で活躍しています。

シマセイキは、コンピュータ横編機メーカーとして常に新しい
技術開発への挑戦を続け、ユーザー業界をリードしています。



シマセイキ 5つの特長

1 日本国内での一貫生産による “シマセイキクオリティ”

製造は全て日本国内の本社工場で行っています。部品から組み立てまでの一貫生産により、多種多様な製品を効率的に生み出すとともに、耐久性・安定性などの優れた品質を確保。世界中の顧客から高い信頼を獲得しています。



2 技術革新を続けて半世紀

1962年に手袋編機メーカーとしてスタートした当社は、機械と電子の技術を融合した総合メカトロニクス企業として、技術革新を通じて世界のニット・アパレル産業の発展に貢献し続けています。



3 海外販売が80%以上

ファッション産業の中心地イタリアや、世界最大のニット生産地である中国・香港、新たな生産拠点として拡大している南アジア・ASEAN諸国など、全世界で高い評価をいただいています。



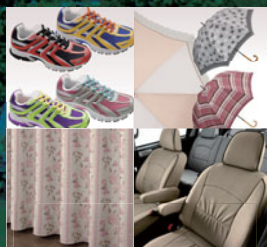
4 横編機の最高峰 ホールガーメント®

一着丸ごと編み上げられたニットを作るホールガーメント®横編機は、シマセイキの独自開発。高いデザイン性と着心地の良さを実現するとともに、カットロスや縫いしろが不要で省資源なうえ、世界的な縫製技術者の不足という問題の解決にも大きく寄与します。



5 アパレル分野以外にも 積極展開

デザインシステム関連事業を中心に、アパレル以外の分野にも「SDS®-ONE APEX」シリーズや自動裁断機「P-CAM®」などを幅広く提案。高性能・高品質の製造機器をさまざまな業界に提供しています。



目次

シマセイキとは

- 1 はじめてのシマセイキ
- 3 比類なき“シマセイキクオリティ”
- 5 シマセイキの価値創造モデル
- 7 財務ハイライト

経営戦略

- 9 トップメッセージ
- 15 シマセイキとSDGs
- 17 ITMA 2019

事業活動の成果

- 19 事業セグメントの状況
- 21 トピックス

成長を支える基盤

- 23 ESGハイライト
- 24 事業の発展と継続のために
- 26 株主・投資家との対話
- 27 コーポレート・ガバナンス
- 30 取締役・監査役・執行役員

財務・企業情報

- 31 財務情報について
- 32 会社情報

比類なき“シマセイキクオリティ”

日本から世界へ。 国内での一貫生産が実現する 比類なき“シマセイキクオリティ”

シマセイキの製品は、全て日本国内の本社工場で製造しています。部品から組み立てまでの一貫生産により、多種多様な製品を効率的に生み出すとともに、耐久性・安定性などの優れた品質を確保。世界中の顧客から高い信頼を獲得しています。



システムまで自社で製造

ないものは自ら創り出す——そのポリシーのもと、超精密部品からコンピュータシステム基板、組み立てまで、全て社内での製造を推進しています。



内製の強みを徹底的に追求

シマセイキグループでは、ネジをはじめ部品の大部分も自社工場で製造。内製化のメリットを徹底的に追求することで、他社に真似のできない高品質なモノづくりを可能にしています。

Wakayama



国内生産

100%

和歌山から世界へ

創業以来、和歌山に本社・工場を置き、グローバルな事業を展開してきたシマセイキ。高い創造性を育む自然豊かな良環境のなかで、全世界が求める製品が日々生み出されています。



最高品質を支える匠の技

機械加工では難しい、高難度の作り込みを可能にするのがシマセイキの「匠の技」。全ての工程を一つの工場に集約しているからこそ世界最高レベルの品質を実現できるのです。

ロボット活用による生産合理化を推進

日本の労働人口減少が深刻化しているなか、無人搬送車の導入による工場内物流の自動化や、ロボットによる組立作業など生産現場のさらなる合理化にも取り組んでいます。ロボットと人間の最適な役割分担を進めることで、より高品質かつ高効率な生産体制の確立を目指していきます。



「世界初」「オンリーワン」の製品で、アパレル産業を

主な資本(インプット、連結)

開発力

世界初、**オンリーワン**の
製品・サービスを生み出す力

生産技術力

多品種少量製品を**高品質**に
一気通貫で生産できる技術

販売力

80カ国以上で販売
海外売上比率 **80**%以上

社会的課題

過重労働による
健康障害

資源の消費/
衣料品の
在庫廃棄

単純作業による
低賃金労働

お客様課題

ファッションの
高度化への対応

多様なモノづくり
への対応

市場トレンドの
構造変化

生産プロセスで生じる
ロスの削減

労働環境の改善

事業活動

開発・設計、生産、販売・サポートを
全てワンストップで提供

開発・設計



生産



会社を支える 基盤

経営理念
Ever Onward

ステーク ホルダー

株主・
投資家

地域社会

中心とした社会課題の解決に貢献します

人財力

従業員 **1,974**名
 長期雇用によるノウハウの蓄積
独創性を生む社風

知財力(単体)

特許保有 **1,359**件
 商標登録 **317**件

財務力

自己資本比率 **83.5**%
 ROE **3.1**%

販売・サポート



アウトプット



横編機



デザインシステム



自動裁断機



手袋・靴下編機

10年後のビジョン
 & 中期経営計画

ガバナンス

お客様

取引先

従業員

創出される社会的価値 (アウトカム)

過酷な労働の削減

3 すべての人に
 健康と福祉を



廃棄衣料の減少
 カットロスの削減

12 つくる責任
 つかう責任



アパレル産業の
 高付加価値化

9 産業と技術革新の
 基盤をつくらう



お客様に 提供する価値

多彩なデザインを
 クイックレスポンスで

多品種少量生産対応

市場トレンドの変化に
 機敏に対応できる
 ソリューション

生産プロセスの
 高効率化

働き続けられる
 労働環境の提供

財務ハイライト

株式会社島精機製作所および連結子会社
3月31日に終了した連結会計年度

	2010	2011	2012	2013	2014	2015
会計年度:	百万円					
売上高	¥36,874	¥42,781	¥37,327	¥34,970	¥40,636	¥48,354
売上総利益	14,139	19,194	14,432	12,212	17,269	21,866
営業利益(損失)	651	5,908	883	(509)	2,732	5,745
税金等調整前 当期純利益(損失)	(1,042)	1,092	(537)	3,363	7,230	7,006
親会社株主に帰属する 当期純利益(損失)	(1,885)	770	(642)	1,754	4,863	3,646

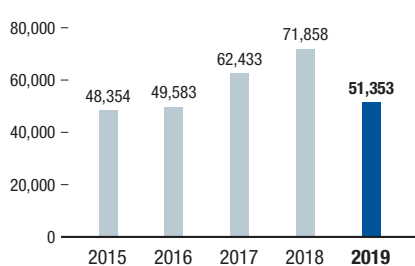
	百万円					
会計年度末:						
総資産	¥110,063	¥113,951	¥106,863	¥112,089	¥119,727	¥126,987
純資産	87,473	86,591	84,167	87,382	93,222	98,179

	円					
1株当たり情報:						
当期純利益(損失)	¥(54.52)	¥22.26	¥(18.60)	¥51.26	¥142.13	¥106.54
配当金	30.00	35.00	40.00	25.00	32.50	32.50
純資産	2,529.67	2,502.27	2,454.07	2,547.88	2,718.57	2,863.49

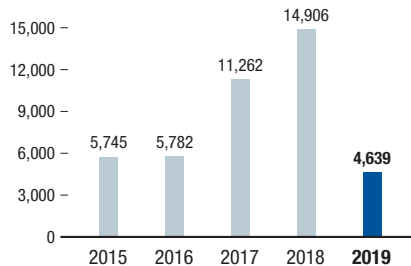
	%					
財務指標:						
ROA	(1.6)%	0.7%	(0.6)%	1.6%	4.2%	3.0%
ROE	(2.0)	0.8	(0.8)	2.0	5.4	3.8
自己資本比率	79.5	75.9	78.6	77.8	77.7	77.2
海外売上高比率	91.6	91.1	87.6	84.7	83.6	84.1

(注) 読者の便宜のため、円建金額を2019年3月31日現在の為替レートである1米ドル=110.99円、1ユーロ=124.56円でそれぞれ換算しています。

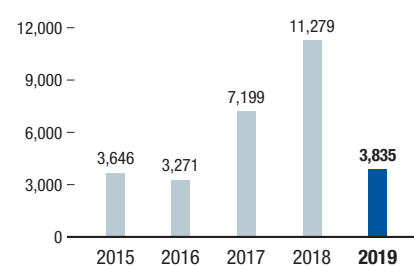
売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)

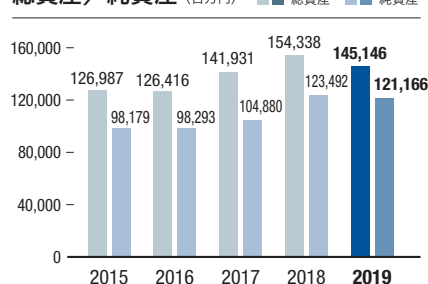


親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)

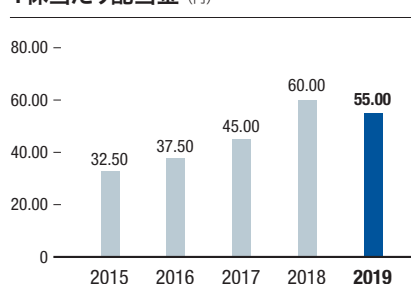


2016	2017	2018	2019	2018 ▶ 2019	2019	2019
				増減率	千米ドル	千ユーロ
¥49,583	¥62,433	¥71,858	¥51,353	-28.5%	\$462,681	€412,275
23,345	29,048	33,438	23,156	-30.8	208,631	185,902
5,782	11,262	14,906	4,639	-68.9	41,797	37,243
4,803	9,979	15,443	5,100	-67.0	45,950	40,944
3,271	7,199	11,279	3,835	-66.0	34,553	30,788
				増減率	千米ドル	千ユーロ
¥126,416	¥141,931	¥154,338	¥145,146	-6.0%	\$1,307,739	€1,165,270
98,293	104,880	123,492	121,166	-1.9	1,091,684	972,752
				増減率	米ドル	ユーロ
¥95.61	¥209.97	¥316.82	¥105.62	-66.7%	\$0.95	€0.85
37.50	45.00	60.00	55.00	-8.3	0.50	0.44
2,867.00	3,039.66	3,381.85	3,411.08	0.9	30.73	27.39
2.6%	5.4%	7.6%	2.6%			
3.3	7.1	9.9	3.1			
77.6	73.8	80.0	83.5			
83.5	87.6	90.0	83.2			

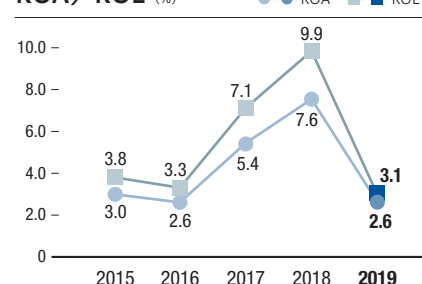
総資産／純資産 (百万円)



1株当たり配当金 (円)



ROA／ROE (%)



従来型コンピュータ横編機の市場低迷で減収減益となりましたが、好調なホールゲーム[®]横編機を軸に、将来に向けて市場ニーズを先取りし、業績回復に努めてまいります。



代表取締役社長

島 三博

プロフィール

- 1987年3月 当社入社
- 1998年3月 システム開発部長
- 2002年6月 取締役システム開発部長
- 2007年6月 常務取締役制御システム開発部、知的財産部、トータルデザインセンター担当兼グラフィックシステム開発部長
- 2011年6月 専務取締役生産技術部、トータルデザインセンター担当兼生産本部長
- 2012年6月 取締役副社長経営企画部、トータルデザインセンター担当兼営業本部副本部長
- 2017年6月 代表取締役社長兼営業本部長兼経営企画部担当
- 2018年6月 代表取締役社長執行役員兼経営企画部担当(現任)

Ever Onward — 限りなき前進

当社は、「手袋編機の全自動化」を実現するため、現会長・島正博によって1962年に創立されました。

「Ever Onward — 限りなき前進」を経営理念に掲げ、常に新しい技術の開発を目指して、惜しみない努力と未知なる領域への挑戦を続けてまいりました。

創業以来、時代のニーズを先取りした横編機やデザインシステムを次々と開発し、世界のトップメーカーへと成長。1990年代には、「産業革命に匹敵する」と評された無縫製型の「ホールガーメント®横編機」の開発に成功しました。

今後も新たな技術開発へのチャレンジを続けながら、企画提案型のビジネスモデルの浸透を図り、アパレル産業をはじめユーザー業界の発展に貢献してまいります。



当期(2019年3月期)の主な取り組みと業績について説明してください。



ホールガーメント®横編機の伸び以上に従来型機種の販売が低迷し、減収となりました。

第2次中期経営計画「Ever Onward 2020」の初年度である当期(2019年3月期)は、組織改革や社員の意識改革など、質的な面ではさまざまな進捗がありました。しかし、事業環境が計画策定時の想定よりも厳しい状況となったこともあり、連結売上高は513億53百万円(前期比28.5%減)の減収となりました。利益面についても、営業利益46億39百万円(同68.9%減)、経常利益49億91百万円(同67.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益38億35百万円(同66.0%減)と、いずれも大幅な減益となりました。

売上高減少の大きな要因は、アジア地域を中心に「SSR®」「SVR®」などの従来型コンピュータ横編機の販売が不振だったことです。特に近年、積極的な設備投資が続いていたバングラデシュにおいて、不安定な国内政治情勢から顧客の投資意欲が急激に減退したことが業績全体に大きく影響しました。その他にも、近年販売を伸ばしてきたシューズ生産向け横編機が低調であったことや、欧州向けOEM生産地のトルコが通貨安の影響でユーザーの資金調達難を招き、設備投資が低迷したことなども売上高減少につながりました。また、利益面についても、売上高の減少に加え、下半期以降に生産調整を行ったことによる売上総利益率の悪化や、一部顧客の支払遅延に対応して貸倒引当金繰入額を増額させたことなどにより、大幅に減少しました。



Première Vision Paris
【フランス】



Pitti Filati 84
【イタリア】

トップメッセージ



ISPO MUNICH 2019
【ドイツ】



FEBRATEX 2018
【ブラジル】

Q₂

事業分野別の状況について説明願います。

A₂

横編機事業の販売不振に連動し、
デザインシステム関連事業も低調となりました。

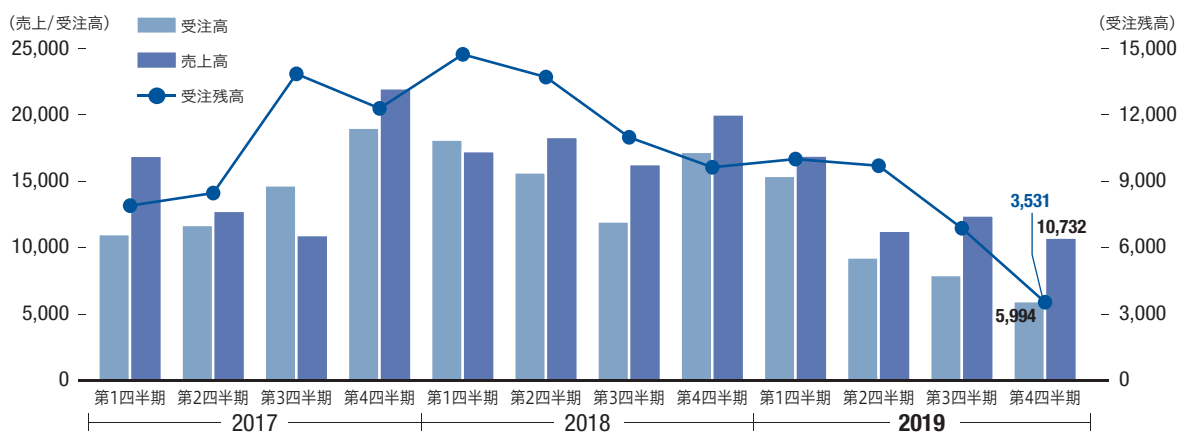
横編機事業では、前年度まで「SSR[®]」を中心に好調な販売を続けてきたバングラデシュにおいて設備投資が低迷しました。また近年、売上を急伸させてきたシューズ生産向け横編機も、トップブランドの設備投資が一巡したことや、ボリュームゾーンにおける競合メーカーの台頭などによって販売を伸ばすことができませんでした。これらの結果、横編機事業全体の売上高が減少しました。

しかし、ホールガーメント[®]横編機に関しては、世界で販売が拡大し、特に中国市場で販売が伸長しました。中国では国内の衣料品需要の拡大を受け、輸出向けOEMビジネスから国内消費向けビジネスへの転換が進行しており、高付加価値で環境にもやさしいニット製品をスピーディに生産できるホールガーメント[®]横編機は、今後も需要拡大が期待できます。その他、日本や韓国、イタリアなどでも「消費地型生産」体制の整備に伴ってホールガーメント[®]横編機の販売が堅調に推移しました。

デザインシステム関連事業では、「SDS[®]-ONE APEX3」が横編機の販売台数に連動して売上高が減少しました。

一方、自動裁断機「P-CAM[®]」は国内外で好調に販売を伸ばしました。裁断の前後工程を含めた「カッティングソリューション」としての提案強化によって、海外の縫製工場でも採用が進んだほか、自動車、産業資材、家具などの異業種にも引き続き導入が広がりました。

■ 四半期別売上高/受注高/受注残高 (百万円)



(3月31日に終了した連結会計年度)

Q₃

次期(2020年3月期)の主な取り組みと業績見通しについて説明してください。

A₃

ホールガーメント®とデザインシステムの連動によるビジネスモデルを提案していきます。

次期も各地域の市場ニーズに応じた提案活動を全世界で進めていきます。特に今後の成長の柱と位置づけるホールガーメント®横編機の拡販に注力します。世界各地で高まる需要に対応すべく、生産体制の増強やサプライチェーンの強化にも取り組み、ホールガーメント®横編機とデザインシステムを組み合わせたオンデマンド生産体制の提案もさらに強化していきます。

2019年6月に、4年に1度の世界最大の国際繊維機械見本市「ITMA 2019」がスペイン・バルセロナで開催されました。「サステナビリティ」が統一テーマに掲げられた今回のITMA展では、ホールガーメント®横編機の最新機種「MACH2®VS」の提案のほか、デザインシステムのバーチャルサンプルを活用した「yarnbank」サイトや、ホールガーメント®の長所を生かした受注生産型のマスクカスタマイゼーションシステム「MADE2FIT」などの新しい提案を行いました。(pp.17-18参照) これらの新たな提案で、需要喚起を促していきます。

なお、次期の連結業績については、売上高523億円、営業利益40億円、経常利益44億円、親会社株主に帰属する当期純利益33億円を計画しています。

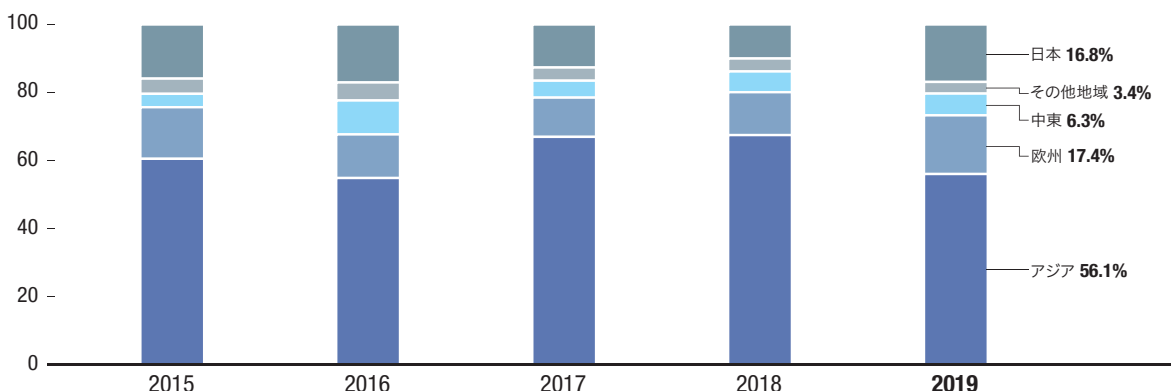


Expotextil Peru 2018
【ペルー】



KNIT WORLD 2019
【インド】

■ 地域別売上高比率 (%)



(3月31日に終了した連結会計年度)

トップメッセージ



ITMA Asia+CITME 2018
【中国】



Preview in SEOUL 2018
【韓国】



**中期経営計画の進捗と
中長期的な事業展望について教えてください。**



**アパレル業界の変化を先取りしつつ、
ニットの用途拡大も視野に入れて取り組みます。**

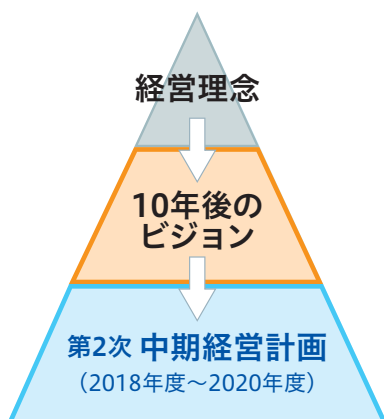
ホールガーメント®横編機の需要は順調に拡大してきており、中長期的にも成長が続くと予想されますが、従来型コンピュータ横編機については丸編機や中国製の廉価な横編機との競合環境が厳しくなっています。また、世界のアパレル・ファッション業界において景気減速への懸念が強まるなか、顧客企業における設備投資マインドの冷え込みも顕著になってきています。こうした状況を踏まえ、当社は2019年5月に中期経営計画「Ever Onward 2020」の経営目標数値を修正しました。

一方、衣料品における「売れ残り商品の大量廃棄処分」が世界的に問題視されていることもあり、アパレル・ファッション業界では今、ビジネスモデルが大きな転換期を迎えています。人件費の安い地域で大量に生産して消費地に投入するビジネスから、消費地のニーズに合った商品を、必要なときに、必要な分だけ生産する「サステナブルなモノづくり」への転換が、今後急速に進むと予想されます。こうした世界的な流れを捉え、当社はITMA展で提案した「MADE2FIT」に象徴されるような、新しいビジネスモデルの提案を今後も全世界に広げていきます。

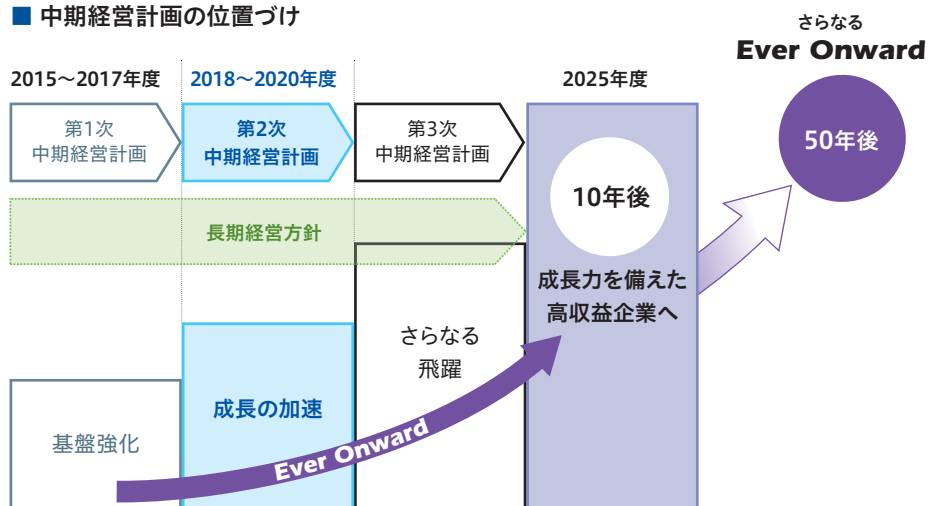
また、今回のITMA展では、新しいスローガン「KNITify the World(世の中のニット化)」を打ち出しました。

それは自動車やインテリア、家具、産業資材などアパレル・ファッション以外の幅広い分野へ、ニットの可能性を広げていくことを目的としています。特に、糸から一着丸ごと立体的に編めるホールガーメント®は、原材料の削減や生産

■ 中期経営計画の概念図



■ 中期経営計画の位置づけ



プロセス合理化、製品機能の向上など、多様な産業分野にメリットをもたらすと考えており、さまざまな業種への提案に注力していきます。

Q₅ 株主・投資家の皆様へのメッセージをお願いします。

A₅ 「サステナブルな未来」に貢献し、さらなる成長を目指していきます。

株主の皆様への配当については「配当性向30%以上」を基本としながら、安定的配当も重視しています。この考え方にに基づき、当期は減収減益ではありますが、中間配当金30円、期末配当金25円の合計55円で株主配当を実施させていただきました。なお、株主還元を充実させるべく、2018年11月から2019年3月まで自己株式の取得を実施し、総計100万株を取得しました。今後も時機に応じ柔軟に自己株式の取得を行い、株主還元の充実、資本効率の向上に努めていく方針です。

経営理念「Ever Onward — 限りなき前進」のもと、当社はこれからもアパレル・ファッション業界をはじめ、さまざまな業界のサステナブルな未来に貢献しながら、自らも持続的な成長を目指していきます。

株主・投資家の皆様には、引き続き当社への温かいご理解とご支援をお願いいたします。

代表取締役社長

島 三博



第5回ウェアラブルEXPO
【東京】



■ 中期経営計画「Ever Onward 2020」の目標数値修正

	2021年3月期 (当初目標)	2021年3月期 (修正目標)
売上高	1,000 億円	650 億円
営業利益	250 億円	100 億円
経常利益	250 億円	100 億円
親会社株主に 帰属する当期純利益	180 億円	70 億円
ROE	12%	5.3%
配当性向	25%	30%以上

シマセイキはサステナビリティへの取り組みを通じて、

アパレル産業は今、大きな変革期を迎えています。

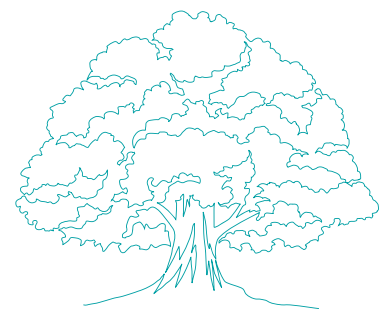
近年、消費者の求めに応じて、トレンド商品を低価格でスピーディに届けるサプライチェーンが確立されてきました。

しかしそれは、人件費の安い地域で大量生産され、市場に投入されることを前提としています。このような流れは供給過剰を生み、売れ残り商品の廃棄処分につながるなど、現在、社会問題としてクローズアップされています。

当社は、さまざまな課題に対し、ホールガーメント®横編機、デザインシステムを中心とした革新的なソリューションを広めることで、流通革命を促し、多品種少量生産などへの対応や「サステナブルなモノづくり」を実現させ、SDGsの達成に貢献していきます。

当社製品を通じた SDGsへの取り組み

アパレル産業の課題に対し、当社のホールガーメント®横編機とデザインシステムの連携が、さまざまな無駄をなくす生産工程の革新を実現します。



SDGsの達成に貢献していきます

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGs(持続可能な開発目標)とは、2015年の国連サミットで採択された2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットから構成され、発展途上国のみならず、先進国も取り組むことが求められています。

労働環境の改善

一般的な横編機は、裾、袖、身頃などのパーツごとに編み、それらをミシンによる縫製や、ニットの目と目をつなぐリンク作業で縫い合わせます。リンク作業には、編み目の一つ一つに針を刺す手作業が必要で、長時間にわたり目を酷使する細かな作業です。

当社のホールガーメント®横編機は、縫い目がないため、過酷なリンク作業をなくし、労働環境の改善に寄与します。

3 すべての人に
健康と福祉を



人にやさしく

カットロスの削減、廃棄衣料の減少

当社が独自開発したホールガーメント®横編機は、一着丸ごと編むことができるため、裁断や縫製、リンク作業などの後工程をなくすことができます。縫いしろ部分のロスがなくなるうえに、従来の製法と比べてカットロスを約30%も削減でき、それに伴うエネルギーや廃棄によるCO₂の排出量を削減します。また、出荷にかかるリードタイムを短縮できるため作り足しが容易となり、無駄なく、必要なときに必要な分だけ生産でき、廃棄される売れ残り商品を最小化します。

12 つくる責任
つかう責任



地球にやさしく

アパレル産業の高付加価値化

同じ商品の大量生産ではなく、地域ごとの異なるニーズに合わせた商品を作り出すことが、その地域の産業を高度化することにつながります。アパレル産業においても、一人ひとりに合わせたクリエイティブな商品開発による高付加価値化を、当社のホールガーメント®横編機、デザインシステム、staf®(トレンド情報などを提供するWEBサービス)などによりバックアップします。

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



未来をつくる

4年に1度、開催される繊維機械最大の展示会

ITMA 2019でアパレルの未来像を提唱しました

2019年6月、世界最大の国際繊維機械見本市「ITMA 2019」がスペイン・バルセロナで7日間にわたって開催されました。当社は、「KNITify the World」(世の中のニット化)をスローガンに、アパレル産業の未来像を提示する斬新な提案を行いました。



ITMA 2019

2019年6月20日～26日

出展面積: 114,500平方メートル

出展企業: 45国・地域より1,700社以上

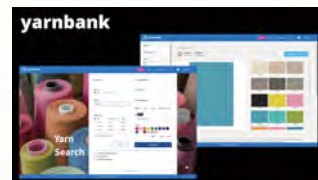
来場者: 105,000人以上



サプライチェーンをデジタルデータでつなぐ 【yarnbank】構想を発表

yarnbankは、紡績メーカーと共同で開設する糸データのWEBサイトです。各メーカーが提供する糸のデジタルデータを同サイトに登録しておくことで、ユーザーは自分のイメージに合った糸を手軽に検索・ダウンロードしてバーチャルサンプルに使うことができます。アパレル企業は多種多様な糸のデータをデジタル化する手間が省け、紡績メーカーも糸製品の新しい販促手法として活用できます。

会場でも世界中の糸メーカーから「ぜひ参加したい」との声をいただきました。





マスカスタマイゼーションシステム【MADE2FIT】を紹介

MADE 2 FIT™

MADE2FITは、ホールガーメント®の特長と、新開発の自動プログラミングソフトを活用した「受注生産型」のマスカスタマイゼーションシステムです。

スマートフォンのカメラアプリ等で採寸したデータから、編成データの構築、生産工場のプログラミング・サーバーへのデータ転送、

ホールガーメント®横編機による編成・後加工、出荷までを一貫で管理できます。

MADE2FITは、消費者一人ひとりに合わせたニット製品を、必要ときに必要な分だけ提供できることから、無駄のないモノづくりを実現するシステムとして来場者の高い関心を集めました。



新機種紹介



MACH2®VS

MACH2®Sをさらに進化させたホールガーメント®横編機。高速化、生産性の向上を実現し、幅広い生産スタイルにも対応。



New SVR®123SP

ジャカードのような柄を天竺編みで表現し、糸の使用量を半分に。資源の効率的な使用が可能。



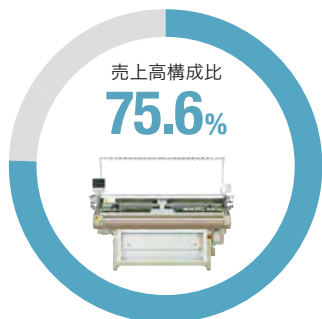
SDS®-ONE APEX4

APEX3に比べ、プログラミングやシミュレーションが飛躍的に高速化。革新的な新機能も搭載。

KNITify™ the Worldとは?

「KNITify the World」(世の中のニット化)は、当社が長年培ってきたニット編成技術のノウハウを、ファッション以外の分野に提案し、今までニットでの生産が考えられなかったものもニット化することで、より効率的でサステイナブルなソリューションを提案するという当社のスローガンです。

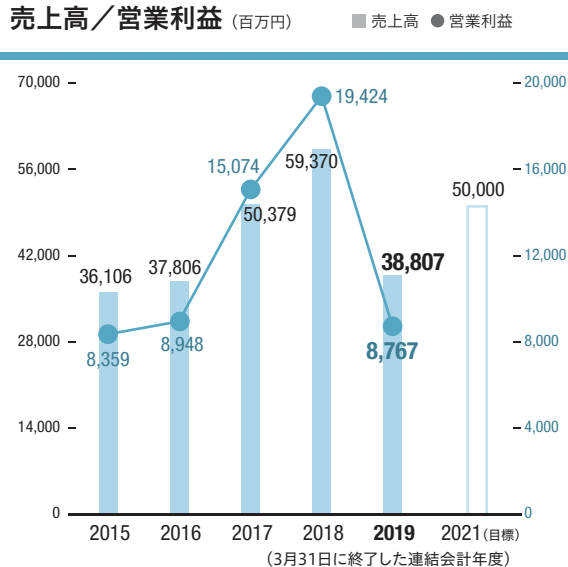
当期の概況と次期の見通し



横編機事業

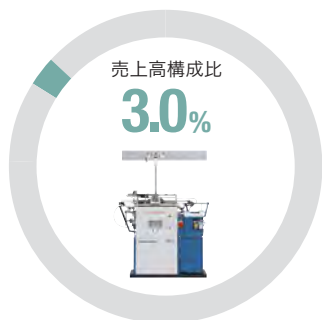
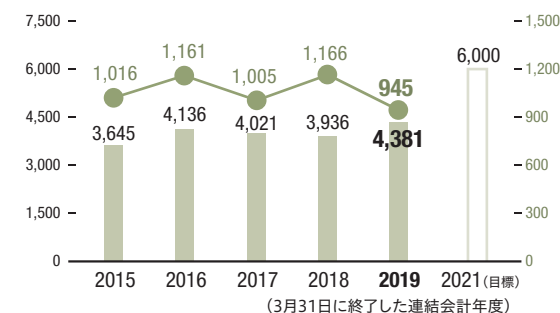
世界トップの技術力を誇るコンピュータ横編機を製造・販売する当社の主力ビジネス。一着丸ごと立体的に編み上げるホールガーメント®横編機、伸縮性を抑えた新しい編地ができる「SRV®」、コストパフォーマンスに優れた「SSR®」、さらに高速編成を可能とする「SVR®」など、独自の開発力を生かした豊富なラインアップで進化し続けています。

売上高／営業利益 (百万円)



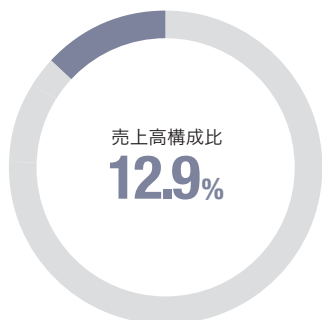
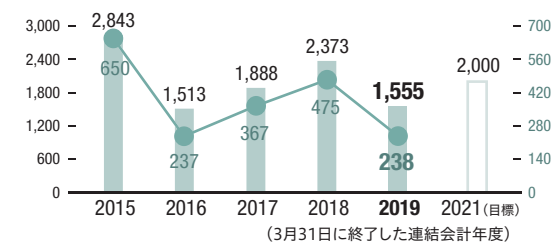
デザインシステム関連事業

アパレル業界をはじめ、さまざまな業界のモノづくりを支援するデザインシステムを提供。高精細なバーチャルサンプルや三次元シミュレーションなどを駆使することで、多彩なデザインを可能にすると同時にリードタイムの短縮とコスト削減を実現。また、自動裁断機による異業種への展開も積極的に進めています。



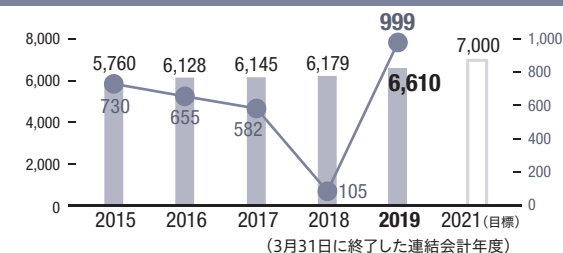
手袋靴下編機事業

当社技術開発の原点である手袋編機、靴下編機の製造・販売。ファインゲージ化も進め、医療用など高付加価値分野への対応を強化しています。



その他事業

当社編機・システム機器のメンテナンス部品の販売や修理・保守、高級カシミア系の紡績、ニット製品の販売などの事業を行っています。



当期の概況

中国市場では、中国国内のアパレル消費拡大に伴い、従来の輸出向けOEM型生産から国内消費向けビジネスへの転換がさらに進展し、ホールガーメント®横編機の導入が拡大しました。一方、先進国アパレル向けの大量生産拠点であるバングラデシュでは、国内の政情不安から設備投資が停滞しました。また、世界経済の減速を背景に、香港大手ニットメーカーのASEAN諸国への設備投資も減退しました。近年急速に拡大してきたシューズ生産向け横編機も、競争環境の激化で販売が伸び悩みました。中東のトルコも2018年7月以降の通貨安の進行がユーザーの資金調達難を招き、第2四半期以降の設備投資が低調でした。日本市場は、コンピュータ横編機の売上高はホールガーメント®横編機を中心に拡大しました。

これらの結果、売上高は388億7百万円(前期比34.6%減)となりました。

デザインシステム「SDS®-ONE APEX3」については、3Dバーチャルシミュレーションの活用による生産・流通の革新を提唱し、積極的な営業展開を行いました。コンピュータ横編機の販売不振に連動して売上高は減少しました。一方、自動裁断機「P-CAM®」は、日本市場だけでなく、海外市場でも好調に売り上げを伸ばし、アパレル業界のみならず自動車内装部品や、産業資材など多様な異業種に販路を拡大しました。

これらの結果、売上高は43億81百万円(前期比11.3%増)となりました。

大手ユーザーの設備投資の減少により、当期の売上高は15億55百万円(前期比34.5%減)となりました。

メンテナンス部品や紡毛糸、ニット製品の販売などで、売上高は66億10百万円(前期比7.0%増)となりました。

次期の見通し

当期に設備投資が停滞したバングラデシュやASEAN諸国については、ニット製品の生産拠点としての重要性は今後も変わらないと予想されることから、設備投資の回復を見込んでいます。中国市場については、国内ファッション市場の活性化に伴い、ホールガーメント®横編機を含む高級機種の需要がさらに拡大すると考えられるため、国内向け高付加価値商品の生産へシフトを図る顧客企業への提案をさらに強化していきます。当期に減速したシューズ生産向け横編機は、2020年の東京オリンピックに向けて市場の回復を期待しています。欧米、日本市場については、引き続きホールガーメント®横編機を中心に「消費地型生産」を提案していきます。

これらの施策により、次期の売上高は393億円(前期比1.3%増)を見込んでいます。

デザインシステム「SDS®-ONE APEX」シリーズは、トータルファッションシステムの核として、引き続き国内外の幅広い業界へ提案していきます。自動裁断機「P-CAM®」は、裁断前後工程を含めた「カッティングソリューション」の提案をアパレル向けにさらに強化するとともに、非アパレル分野への提案もさらに注力していきます。

これらの施策により、次期の売上高は48億円(前期比9.6%増)を見込んでいます。

次期も高付加価値製品を中心に、国内外の顧客に密着した提案活動を推進します。売上高は17億円(前期比9.3%増)を見込んでいます。

次期も当期同様の活動を継続していきます。売上高は65億円(前期比1.7%減)を見込んでいます。

Topics 2019

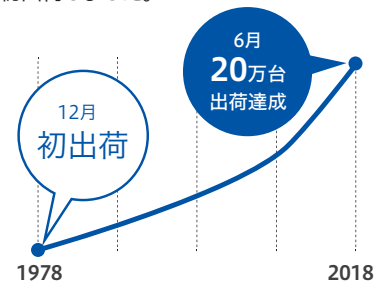
(2018年4月1日～2019年3月31日)

達成

コンピュータ横編機が出荷台数20万台を達成

2018年6月、当社のコンピュータ横編機が出荷台数20万台を達成しました。コンピュータ横編機の第1号機「SNC」が出荷されたのは1978年12月。その後も数々の技術開発によって製品は進化し続け、1988年には大ベストセラーとなった第2世代コンピュータ横編機「SES®」シリーズを発表。さらに1995年には、ホールガーメント®横編機「SWG®」を初出荷しました。

当社のコンピュータ横編機の出荷台数が10万台を超えたのは初出荷から30年後の2008年。それから10年で20万台を達成できたのは、「最高機能の製品を経済的な価格でお届けする」というシマセイキスピリットのもと、社員一丸で取り組んできた結果です。今後はさらに高性能な製品で全世界のお客様のニーズにお応えしていきます。



組織変更

子会社を吸収合併し、人材・場所・設備を有効活用

当社は2018年10月、連結子会社のティーエスエム工業株式会社を吸収合併しました。ティーエスエム工業は、横編機の特徴ある板金加工を主として、近年では横編機部品の機械加工も行うなど、シマセイキグループに関わるさまざまな生産を手がけてきました。

今回の合併は、間接業務を本社に集約するとともに、「人材」「場所」「設備」の有効活用を目的としています。その中で特に重要視する「人材」の有効活用では、従業員の仕事の幅を広げ、さまざまな業務に取り組むことによって個々がスキルアップし、その能力を発揮することで業績の向上につながると考えています。そして、当社グループの経営の効率化を図り、生産の最適化を実現させていくことで、継続的な安定成長を目指していきます。



受賞

島会長が『日経xTECH(クロステック)賞』を受賞

2019年2月、「第17回日本イノベーター大賞」の表彰式がグランドプリンスホテル高輪(東京)で開催され、当社代表取締役会長、島正博が『日経xTECH(クロステック)賞』を受賞しました。

日本イノベーター大賞は、日本の産業界で活躍する独創的な人材にスポットを当てることで日本に活力を与えようと、日経BP社が2002年に創設した賞です。今回、一着丸ごと立体的に編み上げた無縫製ニット『ホールガーメント®』を開発したことに加え、発売当初は高級アパレル中心でしたが、最近では採用するブランドの裾野が広がり、ユーザーの体形や好みに合わせた商品を作る『マスカスタマイゼーション』を容易にしたことなどが評価されました。



設備投資

将来の成長に向けた投資としてグループ会社に新工場を建設

中期経営計画の目標達成のため、業務の効率化と生産能力の増強に取り組んでいます。

メインシナリオに基づき積極的な投資を実行

シマセイキグループは「将来の成長に向けた積極的な投資の強化」を中期経営計画のメインシナリオの一つに掲げています。

グループ全体の業務改善、効率化を図るとともに、将来を見据えた生産能力の増強に取り組んでおり、当期、連結子会社の株式会社海南精密に設備投資を行いました。

組立工程を移設し、生産フローを改善

2018年12月、海南精密の隣接地に新工場を建設。1階は部品加工工程、2階には新たにシマセイキ本社工場から「ソレノイド」の組立工程を移設しました。（右図参照）

海南精密は、横編機の品質に大きく影響するネジなど、重要な精密部品を製造しており、横編機の中核部品であるソレノイドにおいても、組立工程までを担うことで、効率化につながります。

グループ一体となって
中期経営計画の達成を目指す

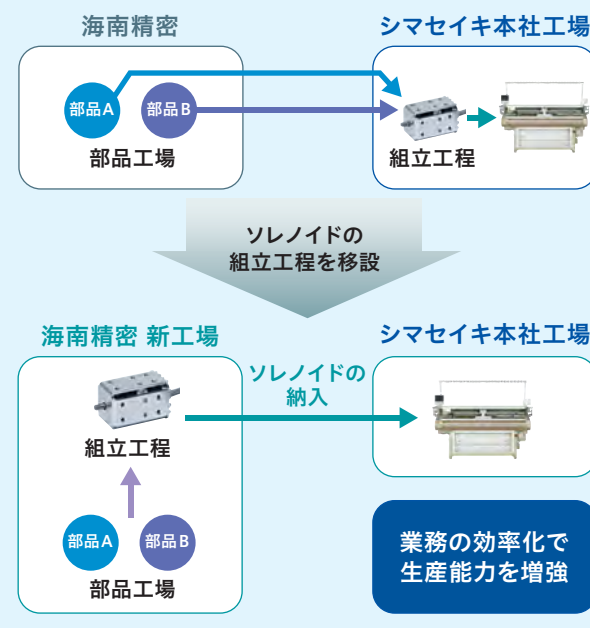
海南精密は社員の平均年齢が低く、これから技術力をつけていくことにより、さらなる品質向上が期待できます。

シマセイキグループが一体となり、高品質な製品をフレキシブルに生産することで、製品への信頼とブランド価値を向上させ、成長力を備えた高収益企業を目指します。



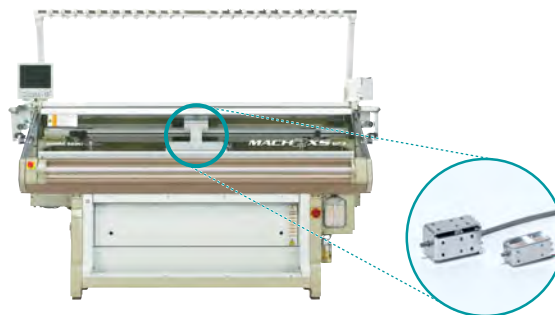
新工場内の様子

作業工程の効率化イメージ図



ソレノイドとは？

ソレノイドは、電気を動きに変換する部品で、横編機の内部にて高速で左右に動くキャリッジに使用されています。1台に約40個使われる主要部品です。

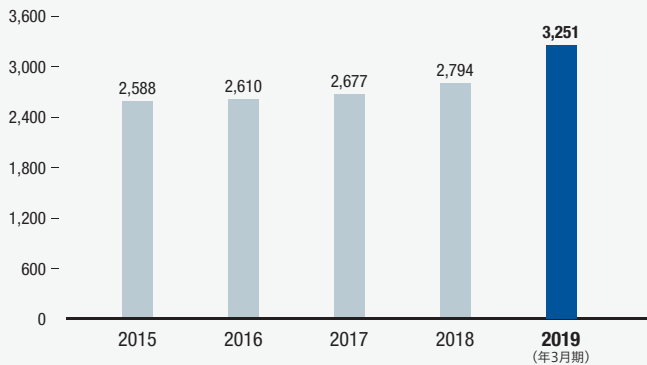


株式会社海南精密

1947年和歌山県海南市に創業。2010年に当社の連結子会社となる。特殊ネジ、カム、シャフトなどの精密部品加工を担っている。当社への部品供給だけでなく、外販にも取り組んでいる。

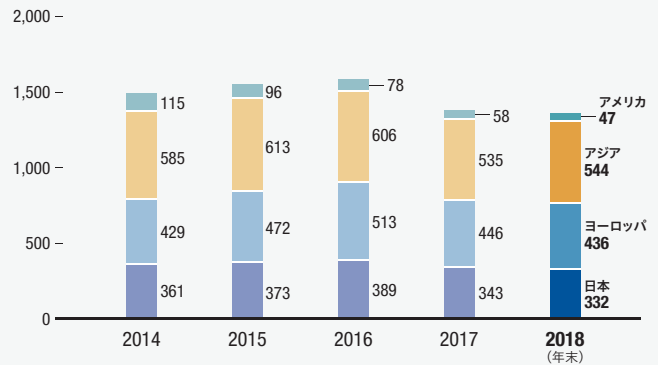
ESGハイライト

研究開発費 (百万円)



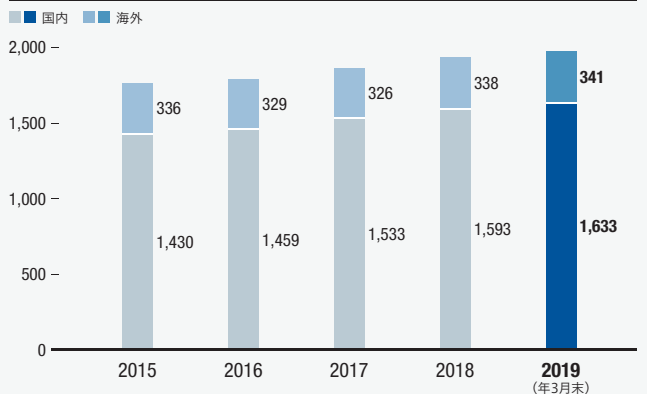
将来にわたり持続的な成長を続ける原資として、研究開発に注力しています。

特許件数 (件)



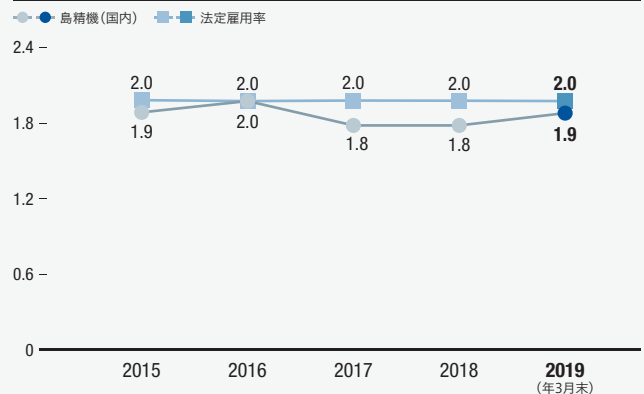
重要な経営戦略として、研究開発成果を知的財産権として保護しています。

連結従業員数 (人)



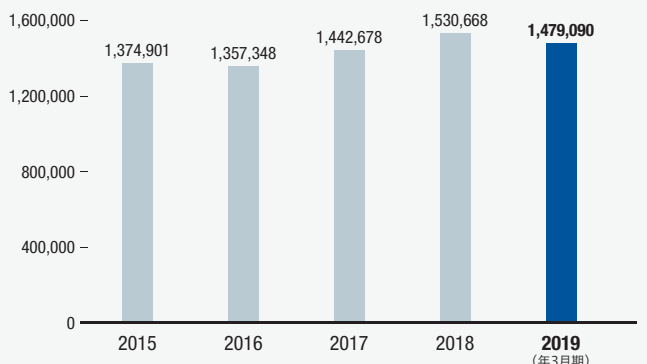
将来を見据えた事業の拡大に対応するため、従業員数は増加しています。

障がい者雇用率(国内) (%)



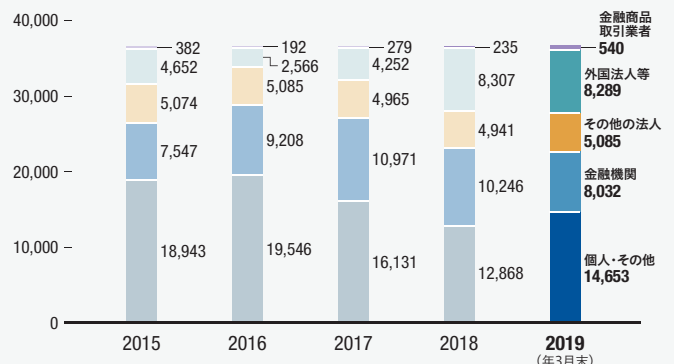
法定雇用率の達成が今後の経営課題です。

太陽光パネルの発電量 (kWh)



環境負荷低減のため、クリーンエネルギーで工場稼働エネルギーの一部を補っています(数値は当社社のみ)。

所有者別持株数 (千株)



海外投資家が減少した一方で、個人投資家比率が増加しました。

事業の発展と継続のために

研究開発活動

当社では、創業以来、「Ever Onward — 限りなき前進」の経営理念のもと、「創造性に基づく独自の技術開発」を基本に、ハードウェア、ソフトウェアを自社開発しています。

横編機分野におきましては、「ITMA 2019」に向けて生産効率向上や省電力を両立させた新機種や新機能の開発を行いました。ホールガーメント®横編機のエントリーモデル「MACH2®VS」を新たに開発。成型編機においては、「SSR®」「SVR®」などの主力機種でキャリアッジシステムを改良し、生産効率を高めた新機種をそれぞれ開発しました。

デザインシステムは、三次元のバーチャルシミュレーションのさらなる高速化、操作性の向上を図った新製品「SDS®-ONE APEX4」の開発に取り組みました。システム上で、よりリアルなサンプル作成につなげ、企画・デザインから生産までのモノづくりを一気通貫でサポートします。

自動裁断機の「P-CAM®」シリーズは、「Total Cutting Solution」を確立させるため、裁断機の開発にとどまらず、延反からラベリング、そしてピックアップと裁断の前後工程において生産性向上や省人化につながる開発を継続しています。



新製品「SDS®-ONE APEX4」

知的財産活動

当社の成長力の源泉である研究開発の成果を知的財産権として保護し、活用していくために、開発本部の中に知的財産部を設けています。

現在当社は、1,359件(2018年12月末現在)国内外特許を保有しています。当社の知的財産戦略の特徴は、「横編機等の機構・制御」をはじめ、「ニットの編成方法」、「デザインシステム関連」など幅広い技術の特許を取得していることです。当社製品やノウハウを利用するユーザーの製品を知的財産権で保護し、差別化することも重要な知的財産戦略と考えています。

また、最新の開発成果はもちろん、これまでに蓄積した技術や

ノウハウは全てデータベース化されており、社内でも共有できる体制を整えています。今後も知的財産活用をさらに強化し、周辺技術などに関しても特許出願していく方針です。

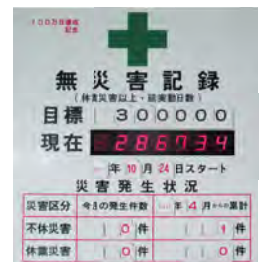
当社は知的財産権の保護を重要視しており、自社及び他社の知的財産権を尊重して事業活動を推進しています。当社が保有する知的財産権を侵害するメーカーに対しては、法的処置を含め適切な措置を行ってまいります。

労働安全活動

当社では、月例の安全衛生委員会を開催し、従業員の安全遵守、健康増進、事故予防に取り組んでおり、今年度で48期目となります。その一環として、「無災害記録ボード」を掲示しています。

「従業員数(当社とグループ製造2社の直接雇用者数)×労災ゼロ(休業災害の発生ゼロ)日数」の数字を従業員食堂の壁面に掲示し、目標数値を15万日、30万日、45万日と達成するたびに更新し、その達成を目指して従業員の安全意識を高める活動を行っています。

また、委員会による定期的な社内巡視や、工場内の通行帯白線の随時見直しなど、安全で効率的に作業できる環境づくりを推進しています。



品質・環境活動

2002年にアパレルデザインシステムの設計及び製造に関するISO9001認証を取得、2015年にISO14001認証を本社で取得するなど、ISO規定や品質基準、環境基準に即した活動を徹底しています。



事業継続計画(BCP)活動

当社では、大規模災害や事故等の発生時においても従業員やその家族および関係者の安全を確保しながら、事業活動の中断を最小化するための体制整備に取り組んでいます。

東南海・南海地震を想定した工場建屋の耐震対策や従業員の安否確認システムを整備するとともに、自らが被災した場合を想定して、事業を早期に復旧するための準備を平時

事業の発展と継続のために

から行い、災害が起きたときには、事業継続計画に基づき「危機管理本部」を立ち上げ、迅速に対応することとしています。

従業員とともに

● 経営トップと従業員とのコミュニケーション

全体朝礼の中で月次の社長講話を実施し、社長自ら従業員に向けてメッセージを発信しています。

社長が月次の経営状況を説明するとともに、その月のトピックについて講話をし、従業員との考え方の共有を図っています。



● 研修制度

新入社員研修をはじめとする各種研修制度の充実に取り組んでいます。工場現場への配属となる新入社員は、配属後に即戦力となるべく最大で半年間、実技研修を受講し、技能を体得できるようにしています。

また、語学研修、新任役職者研修、次世代リーダー育成研修などを実施し、従業員のスキルアップをバックアップしています。

● 表彰制度

魅力あるモノづくりを目指し、社員一人ひとりが仕事として継続的に創意工夫しながら品質向上・コスト低減・労働災害防止・顧客満足度向上・スキルアップ・エコロジー等に取り組むことを奨励する制度として、改善提案表彰を実施。優秀な提案者は月例の全体朝礼の中で社長より表彰を行っています。

また、資格取得の表彰により業務のレベルアップを目的とした資格取得奨励制度や、ホールガーマント®1級技術者など、社内技能検定制度を創設しています。

イノベーション創出企業として、技術発明を奨励する発明審査会も定期的で開催しており、毎年優秀な発明者をたたえて表彰式も行っています。その他、5年ごとに開催している創立記念式典においても、名人賞の表彰を実施しています。

● 働き方改革

企業内保育園「しまキッズランド」を2017年4月に開設しています。2019年3月末時点の定期保育利用率は最大収容人数の60%と着実に認知が進んできており、出産後の職場復帰が容易になる効果も出ています。

● 従業員モチベーション向上策

当社敷地内にあるプール、テニスコートを休日に従業員家族にも解放しています。その他、昼休みの緑地利用や、グループ会社の運営するホテルを保養施設として利用可能にするなど、従業員の健康増進やモチベーションアップに取り組んでいます。

サプライヤー様とともに

調達先については、適正な基準・生産背景による部材調達を徹底し、反社会的なルートによる調達、環境法令に適さない原料・工程による調達を排除する取り組みを行っています。また、販売代理店に対しては、機械操作の手順指導だけでなく、信頼できるパートナーとして人間関係構築につなげるよう、研修・サポートを充実させ、製品開発における課題抽出にも反映させるようにしています。

地域社会とともに

本社のある和歌山を中心に、地域への貢献にも取り組んでいます。

● 「ロボカップジュニア・ジャパンオープン2019和歌山」特別協賛
次世代を担う若い世代に科学技術への興味を深めてもらう狙いです。

● 「シマセイキカップ」の主催

和歌山発のマリンスポーツ発信のため、和歌浦湾でセーリング競技会を毎年、主催しています。

● 美観的な街づくり、ボランティア活動支援

本社周辺道路の電柱地中化推進や、敷地の一部を歩道として提供するなど、本社周辺の環境整備に注力しています。また、和歌山城周辺の清掃活動などを通じて、地域への貢献に取り組んでいます。

株主・投資家との対話

株主総会

当社の最高意思決定機関として、重要事項を決定するとともに、年次の業績概況や連結計算書類の内容等を報告しています。議決権の行使は、パソコンやスマートフォン等を活用したインターネットでも可能です。

総会終了後に開催している工場見学会には、毎年多くの株主様に参加いただいております。当社の高い技術力を肌で感じていただく機会となっています。



株主総会後の本社工場見学会

決算説明会

証券アナリストや機関投資家向けの決算説明会を、年2回、決算発表に合わせて東京都内で開催しています。

決算説明会には代表取締役社長と経理財務担当役員が出席し、経営成績や将来の業績見通し、中期経営計画に基づく中長期的な経営ビジョンを説明するとともに、機関投資家との質疑応答を通して当社の経営方針に対するご意見やご提言をいただく機会としています。



決算説明会(東京)

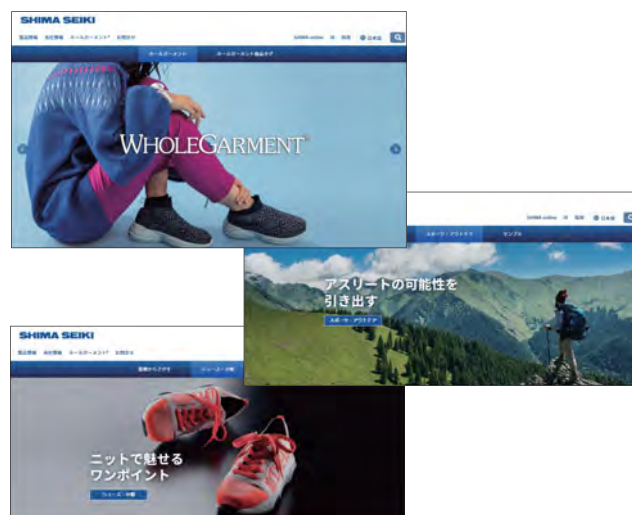
国内外投資家との情報交換

当社グループは、国内外機関投資家との対話の機会を増やす取り組みを推進しています。特に、国内の機関投資家とは定期的に面談を行うほか、証券会社の主催するカンファレンスにも参加しています。海外投資家に対しても積極的な活動を行っており、2018年5~6月に欧州諸国、2019年2月にはシンガポール・香港の機関投資家を訪問しました。当社は、こうした海外IR活動を重要な取り組みの一つとし、今後も感度の高い機関投資家の声を経営に反映させてまいります。

IRツールの活用

当社の事業内容や経営戦略、最近のトピックを株主や投資家の皆様により理解していただくためのツールとして、株主通信やアニュアルレポートを定期的に発行しています。

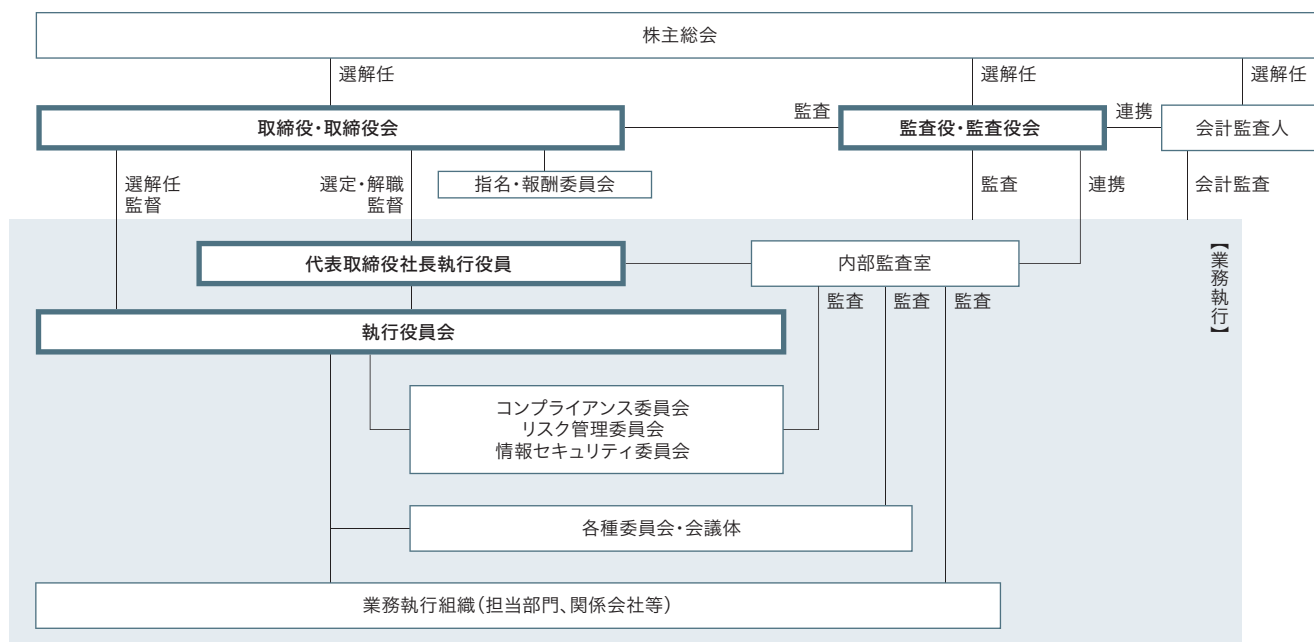
また、2019年6月、当社ホームページをリニューアルし、業種ごとの専用ページを新設。当社の横編機がどのような製品を作り出せるのか、お客様の知りたい内容を中心に掲載しています。その他、当社の経営理念やCSRページなどのコンテンツも充実させています。



リニューアルしたホームページ

コーポレート・ガバナンス (2019年6月27日現在)

コーポレート・ガバナンス体制図



基本方針と体制

当社はコーポレート・ガバナンスの充実を、経営の効率化及び健全性、透明性を向上させ、同時に株主、顧客、取引先、従業員などのステークホルダーの利益を重視した経営を行うために重要な要件であると位置付け、取締役会制度及び監査役制度等の機能を十分に発揮させることにより、適正かつ効果的なコーポレート・ガバナンスが実施できる体制の構築を図ります。

ガバナンス体制

(取締役・取締役会)

取締役会は取締役9名で構成され、月1回以上の開催により業務執行の監督にあっています。

うち2名は社外取締役で、外部からの視点を通じて監督機能、経営体制の強化を図っています。2018年度は13回の取締役会を開催しました。

(監査役・監査役会)

監査役は、社外監査役2名を含む4名から構成され、取締役の職務執行と経営状況の監査を行っています。

社外監査役は弁護士、公認会計士・税理士としての専門的見地から取締役業務の監査を行っています。2018年度は13回

の監査役会を行いました。

(内部監査室)

内部監査室を設置し、業務全般の内部監査のほか、コンプライアンス状況やリスク管理状況、財務報告を含めた内部統制監査を年間監査計画に基づき実施しています。

(会計監査)

会計監査人として大手前監査法人を選任し、定期的に会計監査と内部統制監査を受けることで、監査の実効性を高めています。

内部統制システム

当社は内部統制システムの構築・運用を、企業理念・目標を実現させるための重要な要件であると考えており、「内部統制システムの整備に関する基本方針」を策定し、取り組んでいます。

また、コンプライアンス委員会、リスク管理委員会、情報セキュリティ委員会を設けて内部統制の強化に努めています。

「財務報告に係る内部統制」についても、財務報告の信頼性を確保するため、公正かつ公平なディスクロージャーを推進する体制を整えています。

コンプライアンスへの取り組み

当社は「シマセイキグループ行動基準」の総則に「法令・企業倫理の遵守」を掲げて関係法令の遵守や社会規範の尊重に努めています。その実現のため、コンプライアンス委員会を設置し、定期的にコンプライアンスの状況をチェックするとともに、研修などを通じて計画的にコンプライアンスの定着を図っています。

また、法令違反や人権侵害などの報告・通報窓口として、社内外に「企業倫理ヘルプライン」を設けて運用を行っています。

株主との建設的な対話に関する方針

当社では、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するため、株主・投資家等との建設的な対話を促進いたします。

- (1) ディスクロージャー・ポリシーに基づき、当社のIRに関するスポークスパーソンは、社長、経理担当取締役、情報開示責任者（総務人事担当取締役）、IR担当者としています。
- (2) IR担当部署である総務人事部は、経理財務部と適切に協働し、また関連部署と連携のうえIR活動を推進し、経営陣による株主・投資家等との対話をサポートします。
- (3) IR活動として、沈黙期間を除く株主・投資家との個別面談や電話会議、アナリスト・投資家向け決算説明会（期末・第2四半期の決算発表後）、個人投資家向け会社説明会等を行うほか、ホームページ、ディスクロージャー資料等さまざまな形で、より分かりやすい情報発信を行い、株主・投資家等との対話の促進を図ります。
- (4) 対話を通じて把握した意見・要望等については、必要に応じて経営陣および関連部門へフィードバックし、情報の共有を図ります。
- (5) インサイダー情報については、インサイダー取引防止規程に基づき適切に管理します。

会社の目指すところ（経営理念等）や経営戦略、経営計画

当社では、中期経営計画を策定し、その中で経営理念、経営計画等を開示しています。詳細は当社ホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。

https://www.shimaseiki.co.jp/irj/plan/pdf/plan2018_2.pdf

政策保有株式

当社は、事業上の重要性や取引関係の維持、強化、連携等を通じ当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資すると判断する場合、その株式は保有していく方針といたします。

保有の意義が必ずしも十分でないとは判断される銘柄については、縮減を図ります。

取締役会は、毎年、個別の政策保有株式について、保有することによるリスクと取引関係の維持・強化・連携等を通じて得られる利益等を総合的に勘案し、中長期的な観点から政策保有株式を保有することの合理性を検証し、保有を維持するか縮減するかを決定します。

また、政策保有株式に係る議決権の行使については、その議案の内容を精査し、株主価値の向上に資するものか否かを判断した上で適切に行使します。

取締役会・監査役会の実効性確保

当社では、取締役会の機能が効果的・効率的に発揮できるよう、取締役は15名以内の適切な人数で構成し、取締役会全体としての知識、経験、能力、専門性等のバランス、多様性が確保されるように配慮するものとしています。

取締役のうち、独立社外取締役については、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に寄与するように、社外役員の独立性に関する基準を満たし、求められる役割・責務を果たすことができる者が適切な員数（少なくとも2名以上）となるように配慮するものとします。また社外取締役の候補者については、経営経験を有する者を含むものとします。

現在の取締役は、9名であり、うち2名は独立性のある社外取締役で、異なる事業分野における企業経営者です。また監査役は4名であり、うち2名は独立性のある社外監査役で、それぞれ財務・会計、法務分野における専門的な知見を有しております。

多様性の面では、ジェンダーに関して、現在女性の取締役1名、監査役1名が選任され、国際性の面では国際経験豊富な取締役が選任されています。

（取締役会の実効性についての分析・評価）

（1）評価の方法

取締役および監査役に対して、取締役会の実効性に関して段階評価およびコメントを記載する方式の質問票を配布し、その結果をもとに、取締役会において分析・評価を実施しました。

コーポレート・ガバナンス

(2) 評価結果の概要

当社の取締役会は、全般的に概ね適正に機能しており、審議、議論を通じた適切な監督が行われていることから、全体として取締役会の実効性は確保されていると評価しました。

前年度の課題に対しても、取締役会の構成においては、執行役員制度の導入により取締役員数の削減が図られ、取締役の報酬制度に関しては、指名・報酬委員会を設置するなど取り組みが行われました。

一方、取締役会の実効性をより高めるため取締役会に提出している資料の充実、中長期的な経営戦略や主要なリスクに係る議論の充実、後継者育成プロセスの監督について更なる取り組みの強化を課題として認識しました。

(3) 今後の対応

当社取締役会は、上記評価結果を踏まえ、取締役会での議論の活性化、充実に向け、引き続き検討を続け、更なる取締役会の実効性の確保に努めます。

取締役・監査役のトレーニング

取締役会は、取締役・監査役が期待される役割・責務を適切に果たすため、必要な知識の習得や適切な更新等の研鑽に努めることを奨励し、このためのトレーニング機会の提供や斡旋、必要な費用の支援を行います。また、社外取締役および社外監査役については、当社事業をより深く理解するための事業内容の説明や意見交換の場を設けることとしています。

取締役報酬決定の方針・手続き

取締役の報酬は、各取締役の役割と責任に応じた報酬とし、

また当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向け、取締役のインセンティブを高める報酬体系としています。これにより取締役の報酬は、基本報酬と短期インセンティブ報酬として当該事業年度の業績に連動した役員賞与によって構成し、また中長期的なインセンティブ報酬として機能するようストックオプションによる報酬も組み入れています。なお、社外取締役の報酬は、その役割と独立性の観点から、基本報酬のみとしています。

取締役の報酬決定にあたっては、その透明性と客観性を高めるため、社外取締役を委員長とする指名・報酬委員会において審議を行い、その答申を受けて、取締役会の決議により決定します。

関連当事者間の取引

当社が、当社役員や当社役員が実質的に支配する法人、または主要株主等と取引を行う場合には、あらかじめ取締役会に付議し、その承認を得るものとし、承認された取引についてはその結果を報告することとしています。

社外取締役・社外監査役の主な活動と選任理由

区分 氏名	取締役会 (13回開催)	監査役会 (13回開催)	選任理由
社外取締役 一柳 良雄 氏	13回出席	—	経済・産業政策等の分野における豊富な経験とともに企業経営者としての経営全般にわたる幅広い見識、経験を有していることから、社外取締役として選任しています。
社外取締役 残間 里江子 氏	12回出席	—	プロデューサーとしてイベントの企画やPR・広報戦略における豊富な経験とともに企業経営者として経営全般にわたる幅広い見識、経験を有していることから、社外取締役として選任しています。
社外監査役 新川 大祐 氏	13回出席	13回出席	公認会計士・税理士としての豊富な経験を有しており、主に経理・税務的な観点から監査を通じ当社経営の健全性の確保に貢献いただけるものと判断し、社外監査役として選任しています。
社外監査役 野村 祥子 氏	13回出席	13回出席	弁護士としての豊富な経験を有しており、主に法務的な観点から監査を通じ当社経営の健全性の確保に貢献いただけるものと判断し、社外監査役として選任しています。

取締役・監査役・執行役員 (2019年6月27日現在)

取締役

代表取締役会長
島 正博



代表取締役社長
島 三博



執行役員
経営企画部担当

専務取締役
梅田 郁人



執行役員
営業本部長兼
トータルデザインセンター担当

常務取締役
有北 礼治



執行役員
資材部長兼生産本部担当

取締役
南木 隆



執行役員
経理財務部長兼総務人事部、
管理部、物流部担当

取締役
西谷 泰和



執行役員
開発本部長

取締役
西川 清方



執行役員
営業統括部長

社外取締役
一柳 良雄



株式会社一柳アソシエイツ
代表取締役&CEO

社外取締役
残間 里江子



株式会社キャンディッドプロデューズ
代表取締役社長

監査役

常勤監査役
植田 光紀



常勤監査役
戸津井 久仁



社外監査役
新川 大祐



北斗税理士法人 代表社員

社外監査役
野村 祥子



堂島法律事務所 パートナー弁護士

執行役員

(取締役兼務を除く)

今井 博文

執行役員
総務人事部長

大谷 明広

執行役員
生産部長

北川 尚作

執行役員
経営企画部長

野村社外監査役 再任にあたってのコメント

社外監査役となり5年目を迎えました。当社では2年前の社長交代を機に執行役員制度が導入され、若い世代を中心に経営を進めていこうという前向きな意欲を感じています。

監査役業務としては、私の法律家としての専門性を生かし、経営判断プロセスの相当性やリスク管理、ガバナンス

体制などに特に注目しています。当社は、社外役員の増員や指名・報酬委員会の設置など、ガバナンスに「外部の目」を取り入れる仕組みを着実に整えています。今後は海外子会社を含め、グループ全体でのガバナンス強化が重要になってくると考えます。当社が国内・海外で信頼される企業であり続けられるよう、これからも尽力してまいります。



財務情報について

財務に関する次の情報は、有価証券報告書をご覧ください。

- 連結貸借対照表
- 連結損益計算書
- 連結包括利益計算書
- 連結株主資本等変動計算書
- 連結キャッシュ・フロー計算書
- 連結財務諸表注記

第58期 有価証券報告書

<https://www.shimaseiki.co.jp/irj/library/list.php?cate=2>

<財務数値について>

この日本語版アニュアルレポートは、海外の読者向けに作成された英語版アニュアルレポートを翻訳したものです。そのため、有価証券報告書の財務数値と異なる箇所があります。

企業情報 (2019年3月31日現在)

会社概要

商号 株式会社島精機製作所
本社 〒641-8511 和歌山市坂田85番地
 Tel: (073)471-0511(代) Fax: (073)474-8267
創立 1962年2月4日
資本金 148億5,980万円
従業員数 1,443名(連結1,974名)
URL 企業トップページ <https://www.shimaseiki.co.jp/>
 IR・投資家情報 <https://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>



連結子会社 株式会社シマファインプレス SHIMA SEIKI EUROPE LTD.
 株式会社海南精密 SHIMA SEIKI U.S.A. INC.
 東洋紡糸工業株式会社 島精機(香港)有限公司(SHIMA SEIKI (HONG KONG) LTD.)
 SHIMA SEIKI ITALIA S.p.A.
 島精榮(上海)貿易有限公司(SHIMA SEIKI WIN WIN SHANGHAI LTD.)
 SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.
 東莞島精貿易有限公司(SHIMA SEIKI WIN WIN DONGGUAN LTD.)
 SHIMA SEIKI (THAILAND) CO., LTD.
 SHIMA SEIKI KOREA INC.

投資家情報

決算期 3月31日
定時株主総会 6月
発行可能株式総数 142,000,000株
発行済株式総数 36,600,000株
株主数 14,958名
上場取引所 東京証券取引所市場第一部
監査法人 大手前監査法人

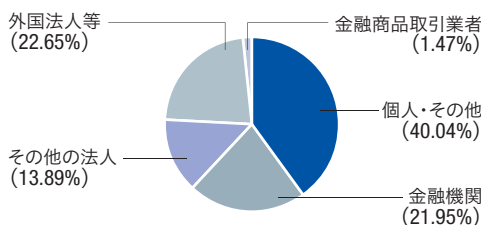
主要大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
和島興産株式会社	4,020	11.32
株式会社紀陽銀行	1,472	4.15
島 正博	1,070	3.01
島 三博	1,061	2.99
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,046	2.95
株式会社三菱UFJ銀行	880	2.48
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	876	2.47
JPMC OPPENHEIMER JASDEC LENDING ACCOUNT	827	2.33
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	787	2.22
合同会社和光	780	2.20

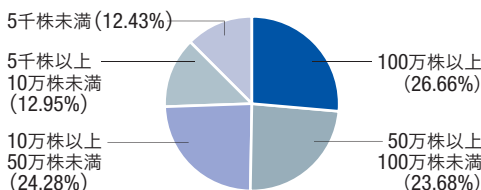
(注)持株比率は、自己株式(1,088千株)を控除して計算しております。

株式分布

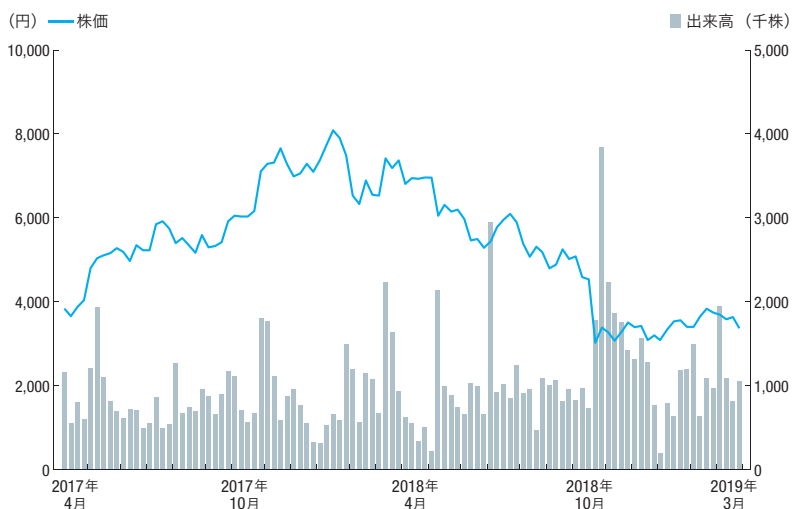
所有者別分布



所有数別分布



株価と出来高の推移



IRサイトのご紹介

当社のIR情報をホームページに掲載しています。業績などの最新情報はもちろん、用語集やよくある質問、IRカレンダーなど役立つコンテンツをご用意しています。ぜひ一度、ご覧ください。



<https://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>

スマートフォンからもIR情報へアクセス

QRコード(二次元コード)の読み取りに対応したスマートフォンをお持ちの方は、右の画像を読み込むと簡単にアクセスできます。



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地

Tel: (073) 471-0511(代) Fax: (073) 474-8267

<https://www.shimaseiki.co.jp>

ホールガーメント、WHOLEGARMENT等は株式会社島精機製作所の日本及びその他の国における登録商標または商標です。

この冊子に記載されている各種名称、会社名、商品名などは、各社の登録商標または商標です。



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。